

GUNMA
HOUSING
AWARD
2017

優秀賞

まちなか住宅賞

リュウノイエ

〈リュウのいえ〉

設計者 株式会社 IZ建築計画

施工者 株式会社 関工務所

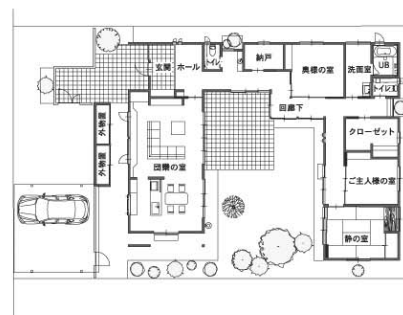


CONCEPT

設計主旨

そこには、ご夫婦の人生が詰まった家があった。ご両親と共にお子様達の成長を見守った家だ。私は、この家を見て替える依頼を受けた。「壊してしまうには惜しい」正直、そう思った。しかし、ご夫婦は未来へのイエに夢をふくらませていた。お話を伺ううちに、お役に立てるならと思い、計画をスタートさせた。既存建物は、南側を広く開けた北側に配置していた。午後になると、西側隣地建物より日影となる。また、南側前面道路は車・人通りが多く、視線も気になった。これら近隣環境を考慮した結果、大胆にも南側を閉じるというプランに至った。道路側からは想像できないが、室はすべて中庭を回廊するように面している。どの室からも、光・風・緑を“感じる”。また、ご夫婦が個々の時間を過ごしていても、お互いを“感じる”ことができる。この“感じる”がコンセプトだ。外部から遮断された空間。中庭の緑が季節を運び、光と風がご夫婦に寄り添うように時が流れる。団欒の

室は、中庭に面する北面を大きく開放。道路に面する南面は、ハイサイドを設けた。軒を出すことで、夏は日射を遮り、冬は日射を取り込む。敷地南側を閉じて、ふんだんに光が降りそそぐ。壁には漆喰、キッチンを隠すように大谷石乱形貼りの壁。ご主人様要望の自然素材があたたかみを演出。趣味多彩のご夫婦。個々の時間を楽しめる室も設けた。ご主人様の室・奥様の室は、格子戸を大きく開放できる。広めの回廊下は、室の一部ようになる。静の室は、和の空間。ご夫婦で過ごされたり、個々で過ごされたりできる。障子を開け広げれば、中庭の緑に誘われたかわいいゲストに会えるかもしれない。また、外観は前面道路からの視点に配慮した。住宅の南側に設けた外物置は、大谷石貼り。住宅の屋根の形・高さに変化をもたせ、外物置や外構とのバランス・調和を図る。リュウノイエが、ご夫婦の未来に彩りを添えることを願った。



平面図



REVIEW

講評

前橋市の閑静な住宅地に建つ平屋建ての住宅。アプローチには塗り壁の塀と大谷石の壁、その奥に住宅の屋根が配置され、奥行きと高低のバランスが良く、街並みに落ち着きを与えている。この大谷石の壁の裏側は収納量の大きな外物置となっていて使い勝手が良さそうである。

プランは南道路からの視線をうまく遮りながらコの字型に平面を配置し、全ての居室が中庭に面するように工夫されている。

各部屋からの中庭の眺めは見る角度によって植栽やテラス、光の変化が楽しい。回廊に面する個室の建具は全て引き込み戸で、戸を開放することで回廊と個室と中庭が一体となる。特に奥様の部屋は出隅をうまく利用して、開放した時は庭に向かってパノラマのように視界が広がる。

大きく開放的な窓は中庭側に、南の道路側はプライバシー確保で閉じながらもハイサイドウィンドウから明るさを取り入れている。季節によって移り変わる光・風・緑・夏の涼しさ、冬の暖かさをもっとコントロールできるように綿密に計画されている。インテリアは漆喰、木、大谷石など自然素材を存分に使用し、間接照明と共に温かみのある空間を演出している。

ご夫婦で過ごすこの家には様々な場が用意されており、別々に趣味を楽しむ工夫や、訪れる人たちの交流を大切にしている意図が感じられる。生活の豊かさを感ぜさせてくれる優れた住宅である。

